

海外 論文 レポート

ICA オスロ総会

菅野正純（日本労協連理事長）

ICA（国際協同組合同盟）の総会が、9月3、4日にノルウェーの首都オスロで開催され、続いて5日に「労働者協同組合世界会議」が、6日にICA・CICOPA（労働者協同組合委員会）の執行委員会と総会が行われ、労働者協同組合連合会・菅野理事長、玄幡さん、センター事業団・田原経理部長が参加しました。

「民主主義・社会・経済発展のための協同組合」をテーマに開かれた総会では、「貧困に反対するグローバルな同盟」「ILO協同組合振興勧告の実施」などを焦点に、「人類と世界の現実と未来において何が問われているのか」、その中で「協同組合運動は実際にどのような役割を果し、今後何を発展させるべきか」が議論され、21世紀国際協同組合運動の「第二の波」を指し示す、歴史的な総会となりました。

本号では、ICA総会第一日目の開会セレモニーとシンポジウムの概要を紹介します。詳細な内容は次号にて報告する予定です。（日本労協新聞より転載）

グローバル化に立ち向かうビジョンと戦略を

イヴァノ・バルベリーニ ICA 会長

経済の発展が倫理から切り離されている。経済は成長したが貧困と飢餓が拡大している。世界中でいま 35 もの戦争が行われており、アフリカでは、人口の半分が清潔な水を得られないでいる。

アマルティア・センが述べているように、真の経済発展とは人間の自由の拡大でなければならない。協同組合運動は同時代の最も重要な問題に参加しなければならない。いまとりわけ大切なことは、「貧困に反対するグ

ローバルな同盟」を形成することだ。

協同組合の新たな発展にとって、女性と若者の役割が決定的だ。女性は協同組合の多くの部門で原動力となっている。若者には協同組合の未来を拓く観点が存在する。若者によって選ばれた代表がICAの理事会に参加できるようにしたい。

今回の総会テーマは「協同を通じた発展」とした。「われわれは何であるのか」「われわれの力は何か」「相乗効果は」を問い、グローバル化の挑戦に応えるビジョンと行動計画を練り上げたい。

翌日の総会で「青年ネットワーク」の代表は、バルベリーニ会長の言葉に励まされて、

次のように述べています。

「協同組合を全く知らない場合ですら、平等、非差別、連帯といった協同組合原則は、世界の多くの若い人々に共有されています。協同組合がそうした多様なグループに手を伸ばすなら、その潜在力は巨大です。『もう一つの世界は可能だ』。そして私たちは、そうした変革の一部でありたいのです」

パネルディスカッション

発展をとりまくグローバルな環境

ILOソマビア事務局長

ILOの初代事務局長アルベルト・トマ(ICA執行委員)以来、ILOとICAは強い結びつきを維持してきた。その結びつきを支えているのは、「労働は商品ではない」「労働は所得以上のものだ」「労働は尊厳と自分への信頼の源泉だ」「それはまた家族の安定とコミュニティの平和の源泉でもある」という共通の理解と心からの一致だ。

今日の世界において、10億人以上の人々が失業ないし雇用不足にある。失業し疎外された人々は、暴力とテロの土壌をつくりだす。失業と貧困に立ち向かって新たな仕事をつくりだすことが、ILOとICAの協同のテーマとなっている。

協同組合の強みは、将来へのビジョンを持っていることだ。現に人々は、自分たちの地域で質の高い仕事を生み出すことを願うようになっている。

非人間的な世界では的外れに思われるかも知れないが、貪欲よりも人間の必要を優先することによって協同組合は「価値を利潤に転換する」ことを可能にしている。

発展途上諸国の協同組合の振興・強化、ILO

協同組合勧告にもとづく各国の法制化・制度政策の推進を共に進めていきたい。

ロベルト・ロドリゲス(ブラジル農業大臣、ICA前会長)

長い間、協同組合は資本主義と共産主義の間の「第三の道」として位置づけられてきた。共産主義が崩壊し、資本主義が強化される中で、混迷が始まり、協同組合の新しい位置づけが模索されることとなった。

しかしグローバル化を直視すれば、民主主義と平和に対する重大な脅威が広がり、「21世紀の地獄の黙示録」の様相を示している。ここに協同の新たな挑戦課題があり、協同組合運動の国際的な「第二の波」が必然となる。われわれは市場経済と理念的価値、市場と福祉をつなぐ「橋」であり、そうならなければならない。利益を追求するが、それ自体が目的ではない。

いま各国の政府は、就労の保障、食の安全、環境保護、万人にとっての正義と平等な機会という大きな課題を抱えている。それは協同組合がめざしてきたことそのものだ。そこに協同組合と政府のパートナーシップの形成が可能となっている。

ブラジルでは「協同組合共和国」をめざすルラ大統領のもとで、「協同組合デー」が初めて大統領府で行われたのも、その一つの表れと言えよう。

ヒルディ・ヨンソン(ノルウェー国際開発大臣)

ジャマイカの貧しい人は言った。「貧困は、牢獄の中で暮らし、奴隷の境遇の中に生き、自由になるのを待ち続けることだ」と。私が今日のべたいビジョンは、人々を主人公に高

め、自分と家族に配慮できるようにし、人々を自由にすることだ。

2000年のミレニアムサミットで、世界の指導者たちは、貧困と闘うためのいわゆる「ミレニアム開発目標」を誓い合った。極貧のうちに暮らす人々を、2015年までに半減し、児童の死亡率を3分の2減らし、誰もが初等教育を受けられるようにすることを自らに課し、その進展を監視することに合意したのだ。

貧困問題を成功裏に解決するためには、人々が主体となって草の根から事業体を組織することが不可欠だ。これは、協同組合がきわめて重要な役割を果す分野である。(バングラデシュの女性協同組合やインドの牛乳協同組合の例などが示された)

グローバル化の中で、貧しい人々の声は、商業の合唱の中にしばしば消されかねない。協同組合運動こそが、かけがえのない役割をもっていることを、私は信じている。

《ICA 総会へのあいさつ・メッセージから》

◎ボンデビック ノルウェー首相

住宅全体に占める協同組合住宅の割合は、オスロ市で40%、全国では15%に達し、「保健、学校、ローカルラジオ・テレビ、保育」なども協同組合で営まれている。協同組合運動はノルウェーにおける福祉社会の発展に貢献しており、協同の取り組みは世界的な課題に立ち向かう上でも決定的だ。

◎ローマ法王パウロ2世

世界的な貧困との闘いの必要を深く検討すると共に、「連帯の文化」を世界に広げてほしい。連帯の文化こそが、個人の尊厳と創造

性を尊重し、共同の福祉と人間発達に貢献するものだ。

◎アナン 国連事務総長

世界中の幾百万の男女が、協同組合を通じて自分たちと家族、コミュニティの人間らしいまともな暮らしをつくりだしている。世界の貧困を克服する国連の「ミレニアム(千年紀)開発目標」においてもICAは有力なパートナーだ。